

令和 5 年 8 月 24 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2018～2022

課題番号：18H00976

研究課題名(和文) パフォーマンス評価を活かしたカリキュラム・マネジメントの改善方略の開発

研究課題名(英文) Advancing Curriculum Management Strategies through Performance Assessment

研究代表者

西岡 加名恵 (Nishioka, Kanae)

京都大学・教育学研究科・教授

研究者番号：20322266

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、各学校の教育改善を推進するために、パフォーマンス評価を活かしたカリキュラムとカリキュラム・マネジメントの改善方略を開発することを目的とした。国内外の理論的・実践的な知見を調査するとともに、データベース「E.FORUM Online (EFO)」を用いて日本における実践事例を幅広く収集・分析した。また、研究協力校や教育委員会との連携により、共同研究開発を行った。これらにより、個々の学校が直面する諸課題に対応するカリキュラムとカリキュラム・マネジメントの改善プロセスを捉えるパフォーマンス評価とそれを活かした改善方略、ならびにこれらの成果を普及する研修プログラムを開発した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、「資質・能力」をバランスよく育成する上で注目されているパフォーマンス評価について、カリキュラム改善やカリキュラム・マネジメントの改善にどう役立てられるかを検討した。国内外の先行研究や先進事例について調査するとともに、その知見を活かして学校現場での共同研究開発を行ったり、教員研修を提供したりした。研究成果を報告・発信する著書・論文等を執筆するとともに、学校現場での実践の改善に貢献することができた。

研究成果の概要(英文)：The aim of this study was to devise strategies that enhance both curriculum content and curriculum management, utilizing performance assessment as a tool to drive educational enhancement in individual schools. Comprehensive research was undertaken, exploring both theoretical constructs and practical outcomes both in Japan and internationally. The E.FORUM Online (EFO) database was employed to gather and scrutinize a broad spectrum of practical examples within Japan. Collaborative research and development were carried out in partnership with associated schools and educational boards. Through this collaborative approach, we formulated performance assessments that illuminate the process of curriculum and curriculum management improvement, responding to the diverse challenges encountered by individual schools. From these assessments, we constructed improvement strategies and training programs aimed at broadening the impact of these initiatives.

研究分野：教育方法学(カリキュラム論、教育評価論)

キーワード：カリキュラム・マネジメント カリキュラム パフォーマンス評価 ルーブリック ポートフォリオ  
教員研修 教科教育 探究的な学習

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 1. 研究開始当初の背景

グローバル化の進展や ICT の革新、地球温暖化や少子高齢化など変化の激しい現代にあって、自らの生き方を選択し、新しい世界を生み出していけるような次世代の育成が一層重要な課題となっている。そうした中、従来の学力の範疇を超えるような問題解決力や実践力などを含む「資質・能力」(コンピテンシーや 21 世紀スキルなど)を育成する重要性が、国内外で指摘されている。平成 29・30 年改訂の学習指導要領においては、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性」の三つの柱で捉えられた「資質・能力」の育成を目指す方針が打ち出された。また、「資質・能力」の育成をはじめとする諸課題の対応に向けて、各学校のカリキュラム・マネジメントの重要性が強調されることとなった。

カリキュラム・マネジメントとは、「各学校が、学校の教育目標をよりよく達成するために、組織としてカリキュラムを創り、動かし、変えていく、継続的かつ発展的な、課題解決の営み」である(田村知子編著『実践・カリキュラムマネジメント』ぎょうせい、2011 年)。カリキュラム・マネジメントについては、様々な事例を踏まえ、共通に見られる特徴を抽出する形での研究が進められている。しかしながら、多様な学校において、カリキュラム・マネジメント自体を改善するプロセスについての研究は、まだ端緒についたばかりと言わざるをえない。また研究開発当初において、カリキュラム・マネジメントの改善を進めるための評価についてはチェックリストやワークショップを用いたものが提案されていたものの、パフォーマンス評価を応用する研究は行われていなかった。

ここで言うパフォーマンス評価とは、知識やスキルをリアルな文脈において活用することを求めるような評価方法を指す。具体的には、レポートやプレゼンテーションなどを求めるパフォーマンス課題や、それらの課題によって生み出された作品を系統的に蓄積・評価・活用していくポートフォリオ評価法などが含まれる。パフォーマンス評価は、教師教育などの職業教育においても用いられる。したがって、カリキュラム・マネジメントを改善する管理職や教師の取り組みの評価にも応用できると期待できる。また現代の日本において、各学校は、学力格差や特別なニーズを持つ学習者への対応、アクティブ・ラーニングの推進、小学校英語やプログラミング教育の導入といった新たな課題に直面している。したがって、それぞれの学校が抱える固有の課題の解決に向けて、パフォーマンス評価を活かしつつ、より良いカリキュラムを開発し、より効果的なカリキュラム・マネジメントを実現するための研究が求められていた。

## 2. 研究の目的

本研究は、各学校の教育改善を推進するために、パフォーマンス評価を活かしたカリキュラムとカリキュラム・マネジメントの改善方略を開発することを目的とした。国内、及び諸外国(主に米国・英国・オーストラリア)の理論的・実践的な知見を調査するとともに、データベース「E.FORUM Online (EFO)」を用いて日本における実践事例を幅広く収集・分析した。また、研究協力校や教育委員会との連携により、パフォーマンス評価を活かしたカリキュラムとカリキュラム・マネジメントの改善方略について、共同研究開発を行った。さらに、その成果を他校・他地域にも応用することによって、妥当性を検証した。これにより、個々の学校が直面する諸課題に対応するカリキュラム、カリキュラム・マネジメントの改善プロセスを捉えるパフォーマンス評価とそれを活かした改善方略、ならびにこれらの成果を普及する研修プログラムを開発することを目的とした。

## 3. 研究の方法

本研究では、主として、下記の 3 つに取り組んだ。

### (1) 先行研究・先進事例の調査

諸外国(主に英国・米国・オーストラリア)と日本における、パフォーマンス評価、カリキュラム、カリキュラム・マネジメント、教員研修に関する先行研究と先進事例について調査した。特に、パフォーマンス評価に関しては、パフォーマンス課題、ルーブリック、ポートフォリオ評価法に注目した。また、プログラミング教育、学校における ICT 活用、小学校英語の導入、教育と福祉の連携など、学校が直面する新たなカリキュラム開発の課題についても、先行研究・先進事例の調査を行った。

2019 年度は世界的に著名な評価研究者である D. R. サドラー氏をオーストラリアから招聘し、パフォーマンス評価に関する最先端の理論と実践について調査した。2020 年度は、米国の教育リーダーシップ研究者である J. ワーブロー氏と、ウェブ上のテレビ会議システムを活用して研究交流を行い、米国における最新動向について検討した。2021 年度・2022 年度は、それぞれ英国・米国の動向について文献調査を行った。

国内においては、様々な特徴をもつ学校におけるカリキュラム・マネジメントについて、調査した。たとえば、進路多様高校において「社会に開いた教育」を実践することによって教育効果を高めている事例について訪問調査を行った。また、特別なニーズを有する子どもたちへの教育

の在り方について知見を深めるため、聴覚障害児教育に取り組む奈良県立ろう学校、外国につながる子どもたちを多数受け入れている豊田市立西保見小学校などに関して調査を行った。2021年度以降は、社会経済的に厳しい条件にある子どもたちを多数受け入れている大阪市立生野南小学校（2022年4月に大阪市立田島南小中一貫校に統合された）について、集中的に調査を行った。さらに、カリキュラム改善を進める教師の力量について事例検討のための聞き取り調査を実施するとともに、ライフストーリーの観点から研究するための基礎資料集を作成した。

#### (2) 研究協力校・協力教育委員会との共同研究開発

パフォーマンス評価を活かしたカリキュラム改善の研究開発を進めることに同意をいただいている研究協力校や教育委員会において共同研究を進め、そのプロセスを分析することによって、カリキュラム・マネジメントの改善方略についての基礎的な知見を得た。パフォーマンス評価を活用する上での困難や疑問点について調査を行うとともに、その解決策について検討した。

具体的には、京都市立高倉小学校、京都市立凌風小・中学校、京都市立堀川高等学校、兵庫県立尼崎小田高等学校などにおいて、継続的な共同研究を進めた。特に京都市立学校では、コロナ禍において急速に進むICT活用とパフォーマンス評価の活用をどう組み合わせればよいかについて、集中的に共同研究開発を進めた。

#### (3) E.FORUM などにおける研修の提供と、実践データの収集・分析

パフォーマンス評価を活かしたカリキュラム改善やカリキュラム・マネジメントに関して、E.FORUMにて研修を提供するとともに、受講者の実践データを「E.FORUM Online」に蓄積してくださるよう依頼した。さらに、蓄積されたデータなどを分析することによって、管理職や教員等の力量形成を評価するためのパフォーマンス評価の開発を進めた。さらに、学校や教育委員会等で教員研修を提供し、学校におけるカリキュラム・マネジメントの改善に資する知見について検証した。

### 4. 研究成果

本研究における主要な成果は、下記の通りである。

#### (1) 海外調査

D. R. サドラー氏をオーストラリアから招聘し、研究会などを実施した。日本よりも先行してパフォーマンス評価を実施してきたオーストラリアの理論と実践を把握することで、日本における研究課題も明確になった。

また、米国のカリキュラム研究の知見について包括的に把握するため、*Encyclopedia of Curriculum Studies*の訳出を進め、『カリキュラム研究事典』（ミネルヴァ書房、2021年）として出版した。本書においては、解説の執筆を担当した。

#### (2) パフォーマンス評価の実践づくりに関する研究

各地の学校との連携のもとで、教科におけるパフォーマンス課題の開発や、探究的な学習の指導と評価などに関して教員研修を提供するとともに、カリキュラム・マネジメントの改善方策について検討した。京都大学大学院教育学研究科 E.FORUM の提供する教員研修においても、シンポジウム「カリキュラム・マネジメントをどう効果的に進めるか」を開催したり、講演「カリキュラム改善の進め方 パフォーマンス評価をどう活かすか」を提供したりした。放送大学の「大学入試をどう考えるのか」の第3回「多面的・総合的評価とは何か」（2020年5・6月）にも出演し、解説を行った。

パフォーマンス評価を活かしたカリキュラム改善の在り方について、共同研究開発の成果をまとめ、書籍『Q&Aでよくわかる！見方・考え方を育てるパフォーマンス評価』（明治図書、2018年）、『学力テスト改革を読み解く！「確かな学力」を保障するパフォーマンス評価』（明治図書、2021年）、『教育評価重要用語事典』（明治図書、2021年）及び論文等で発信した。

これらの書籍等においては、「資質・能力」の育成とパフォーマンス評価、パフォーマンス課題やルーブリックの作り方や活かし方、各教科や「総合的な学習(探究)の時間」におけるパフォーマンス評価の進め方、カリキュラム・マネジメントの進め方などについて解説した。教員研修において寄せられた疑問への回答を含むようにするほか、特別なニーズのある子どもたちへの指導への応用可能性や、ICT活用、入試・キャリア教育についても論じた。

#### (3) 高等学校におけるパフォーマンス評価の研究

関西・北陸のSSH8校と共同研究を進め、課題研究に関する標準ルーブリックの開発に取り組んだ。その成果について、「探究型学力 高大接続シンポジウム」、「大学教育研究フォーラム」で発信するとともに、論文をまとめた。さらに、京都市立堀川高等学校、兵庫県立尼崎小田高等学校、広島県立広島高等学校等と、パフォーマンス評価を活かしたカリキュラム改善に関して共同研究を進めた。

「総合的な探究の時間」の評価に関しては、京都大学大学院教育学研究科 E.FORUMにて、(a) 広島県立広島高等学校の小笠原成章先生の講演会、(b) 兵庫県立尼崎小田高等学校の協力によるワークショップ、(c) 滋賀県立守山北高等学校の小池充弘先生、福井県立若狭高等学校の渡邊久

暢先生、愛知県立大学の大貫守先生にご登壇いただくシンポジウムを開催した。また、雑誌『月刊高校教育』にて連載「探究を評価する」を監修するなど、各種の雑誌・研修会等にて成果を発信した。さらに、書籍『高等学校 教科と探究の新しい学習評価』（学事出版、2020年）、『高等学校 「探究的な学習」の評価』（学事出版、2023年）などにまとめた。

#### (4) 看護教育の研修プログラムの開発

あじさい看護福祉専門学校との共同研究により、看護教育におけるカリキュラム・マネジメントの改善方策について検討を進めた。また、共同研究を踏まえて得られた知見について、各種の研修会や論考において発信した。さらに厚生労働省の依頼により「看護教員養成講習会 eラーニングコンテンツ」（看護教育評価論）の制作にも取り組んだ。

#### (5) 国内における特徴的な実践校の調査

2021年度からは、社会経済的な背景に起因する様々な困難に直面しつつも高い教育効果をあげてきた学校や実践について集中的に調査することにより、効果的かつ包摂性の高いカリキュラムを実現する学校教育の在り方を解明することを目指した。具体的には大阪市立生野南小学校について集中的に調査した。その成果について、『『生きる』教育』 自己肯定感を育み、自分と相手を大切にする方法を学ぶ』（日本標準、2022年）・『心を育てる国語科教育』 スモールステップで育てる「ことばの力』（日本標準、2023年）として刊行した。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計56件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 8件）

1. 著者名 Keita Takayama & Kanae Nishioka	4. 巻 Vol.47, No.6
2. 論文標題 Absurdity of 'the UK experience' as a reflective resource in Kyoto	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 British Educational Research Journal	6. 最初と最後の頁 1500-1503
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/berj.3715	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 西岡加名恵・小野太恵子	4. 巻 第31号
2. 論文標題 「荒れ」を克服し「学力」を保障するカリキュラム改善のプロセス 大阪市立生野南小学校の事例検討	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 カリキュラム研究	6. 最初と最後の頁 29-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 西岡加名恵・若松大輔・鎌田祥輝	4. 巻 第25号
2. 論文標題 小中一貫校における1人1台端末とパフォーマンス課題を導入した単元開発 京都市立凌風小中学校における社会科・理科の事例検討	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 教育方法の探究	6. 最初と最後の頁 1-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14989/273981	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 西岡加名恵	4. 巻 2021年10月号
2. 論文標題 新学習指導要領で求められる学習評価の本質とその実践の要諦	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 VIEW next高校版	6. 最初と最後の頁 18-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 西岡加名恵	4. 巻 2021年12月号 (第67巻第11号)
2. 論文標題 なぜ、学校において「探究」の機会を保障するのか	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 教育展望	6. 最初と最後の頁 2-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西岡加名恵	4. 巻 No.592
2. 論文標題 カリキュラムをどう評価し、改善につなげるか	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 月刊教職研修	6. 最初と最後の頁 28-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西岡加名恵	4. 巻 2022年1月号
2. 論文標題 「本質的な問い」とパフォーマンス課題で、子どもたちを育てる	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 教育研究 (一般社団法人初等教育研究会)	6. 最初と最後の頁 16-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西岡加名恵	4. 巻 第55巻第3号
2. 論文標題 「探究的な学習」を評価する大学入試 (連載「『探究』を評価する」最終回)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 月刊高校教育	6. 最初と最後の頁 58-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井英真	4. 巻 2021年度3 学期号
2. 論文標題 新学習指導要領における学習評価のあり方 観点別評価で「学びの舞台」をつくる	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 地歴・公民科資料ChiReKo	6. 最初と最後の頁 4-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石井英真	4. 巻 vol.12
2. 論文標題 わかる授業へ、そして「教科する」授業へ 授業づくりの5つのツボ (原理・原則)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 授業UD研究	6. 最初と最後の頁 59-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井英真	4. 巻 2021年6月号 (第67巻第5号)
2. 論文標題 学習評価と「指導と評価の一体化」を問う	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 教育展望	6. 最初と最後の頁 11-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鋒山泰弘	4. 巻 2021年12月号
2. 論文標題 3 観点別評価を考える	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 クレスコ	6. 最初と最後の頁 32-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鋒山泰弘	4. 巻 第10号
2. 論文標題 3 観点別評価を考える 「到達度評価研究会」の立場から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 今日からはじめる楽しい授業づくり	6. 最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤沢真世	4. 巻 2021年6月号 (第67巻第5号)
2. 論文標題 小学校外国語教育における指導と評価の一体化のあり方を考える	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 教育展望	6. 最初と最後の頁 30-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西岡加名恵	4. 巻 2020年4月号
2. 論文標題 カリキュラムにおける「探究的な学習」の位置づけと評価 (連載「『探究』を評価する」第1回)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 月刊高校教育	6. 最初と最後の頁 54-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井英真	4. 巻 No. 1232
2. 論文標題 質の高い学びを実現するために 「教科する」授業と授業づくりの不易	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 学校教育	6. 最初と最後の頁 6-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 石井英真	4. 巻 第53巻第8号
2. 論文標題 いま学校にできること withコロナの中で学ぶ権利を保障するために	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 月刊高校教育	6. 最初と最後の頁 10-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井英真	4. 巻 2020年9月号
2. 論文標題 ポストコロナ時代を見据えた教育のオンライン化の課題について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 教育展望	6. 最初と最後の頁 18-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井英真	4. 巻 教職研修総合特集 701号
2. 論文標題 子どもたちの「学びを保障する」とはどういうことか	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ポスト・コロナの学校を描く	6. 最初と最後の頁 62-70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井英真	4. 巻 43号
2. 論文標題 若い教師に伝えたい授業技術の基礎・基本 教師の身体が生み出すもの	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 教師のチカラ	6. 最初と最後の頁 70-71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井英真	4. 巻 No.669・70巻
2. 論文標題 withコロナを公教育のバージョンアップにつなぐために	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 家庭科	6. 最初と最後の頁 13-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井英真	4. 巻 第53巻14号
2. 論文標題 「未来形の学び」の落とし穴と「未来を創る学び」への視点	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 高校教育 増刊	6. 最初と最後の頁 156-169
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井英真	4. 巻 794号
2. 論文標題 授業づくりの深め方	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 指導と評価	6. 最初と最後の頁 9-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井英真	4. 巻 582号
2. 論文標題 Q&A「個別最適な学び」への疑問に答える AIドリルをやらせればよいのか?	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 教職研修	6. 最初と最後の頁 96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤沢真世	4. 巻 20号
2. 論文標題 小学校外国語教科書におけるパフォーマンス課題の検討と求められる評価の工夫	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 佛教大学教育学部学会紀要	6. 最初と最後の頁 11-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 八田幸恵	4. 巻 第18巻
2. 論文標題 福井県立若狭高校における2011(平成23)年指定第1期SSHカリキュラム開発の検討 カリキュラム改革のビジョンと共通教育目標を模索するプロセス	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 教育学研究論集(大阪教育大学大学院学校教育専攻教育学コース)	6. 最初と最後の頁 23-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西岡加名恵・大貴守	4. 巻 第23号
2. 論文標題 スーパーサイエンスハイスクール8校の連携による「標準ルーブリック」開発の試み	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 教育方法の探究	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 西岡加名恵	4. 巻 Vol.54-3
2. 論文標題 「資質・能力」を育てるパフォーマンス評価	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 KGKジャーナル	6. 最初と最後の頁 8-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西岡加名恵	4. 巻 2020年4月号
2. 論文標題 カリキュラムにおける「探究的な学習」の位置づけと評価（連載「『探究』を評価する」第1回）	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 月刊 高校教育	6. 最初と最後の頁 54-57
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井英真	4. 巻 第65巻5月号（通巻773号）
2. 論文標題 観点別学習状況 新三観点と情意領域の評価をどう考えるか	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 指導と評価	6. 最初と最後の頁 10-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井英真	4. 巻 なし
2. 論文標題 「見方・考え方」概念がカリキュラム開発に提起するもの 教科教育の現代的課題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 今なぜ「見方・考え方」なのか 教育内容・教科内容の再構築（日本教育方法学会第22回研究集会報告書 午前の部）	6. 最初と最後の頁 6-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井英真	4. 巻 2019年11月号
2. 論文標題 授業改善を軸にした学校づくり PDCAサイクルから探究する組織へ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Guideline（河合塾／全国進学情報センター）	6. 最初と最後の頁 42-45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井英真	4. 巻 なし
2. 論文標題 授業改善を軸にした学校づくり PDCAサイクルから探究する組織へ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 未来のマナビフェス2019 2030年の学びをデザインする 実施報告書(河合塾)	6. 最初と最後の頁 8-9
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井英真・梅津健志・森田泰司	4. 巻 2019年vol.3(通巻第19号)
2. 論文標題 座談会 目標・指導・評価の一体化を図り、未来の学習につながる評価の実現を	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 VIEW21教育委員会版	6. 最初と最後の頁 6-9
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井英真	4. 巻 2020年1月号(841号)
2. 論文標題 ほんものの学力を試す総括的で挑戦的な課題づくりを	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国語教育	6. 最初と最後の頁 4-7
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井英真	4. 巻 49号
2. 論文標題 非認知的能力の育て方を問う スキル訓練を超えて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 研究紀要(日本教材文化研究財団)	6. 最初と最後の頁 15-20
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井英真	4. 巻 2020年3月号(通巻717号)
2. 論文標題 「未来の学校」をどう構想するか	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 教育展望	6. 最初と最後の頁 50-57
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤沢真世	4. 巻 第6号
2. 論文標題 読みの指導におけるつまづき分析(Miscue Analysis)の意義と課題 小学校外国語の読み書き指導への示唆	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 大阪成蹊大学紀要	6. 最初と最後の頁 249-258
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤沢真世	4. 巻 2019年11月号
2. 論文標題 I WNT TOW VST grandmaは間違い?子どもの創造的な学びを尊重し、指導に活かす	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 英語教育(大修館書店)	6. 最初と最後の頁 29
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤沢真世	4. 巻 第66巻第2号
2. 論文標題 主体的に学習に取り組む態度をどう評価するか 小学校外国語を例に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 教育展望	6. 最初と最後の頁 33-38
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 八田幸恵	4. 巻 第44巻
2. 論文標題 教育評価における共通教育目標・内容設定の方法論を探る カリキュラム開発の「羅生門的接近」をめぐって	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 教育方法学研究	6. 最初と最後の頁 37-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18971/nasemjournal.44.0_37	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 八田幸恵	4. 巻 第17巻
2. 論文標題 戦後日本の系統学習論における教材論史の総括(2) 1970-80年代 藤岡信勝における社会科教授学研究の方法論的特質	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 教育学研究論集(大阪教育大学大学院学校教育専攻教育学コース)	6. 最初と最後の頁 12-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西岡加名恵	4. 巻 第21号
2. 論文標題 【翻訳】大村はまによる国語科単元学習の実践	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 教育方法の探究	6. 最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14989/235502	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 西岡加名恵	4. 巻 Vol.7
2. 論文標題 「主体的・対話的で深い学び」をどう実現するか?	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 リーダーズ・ライブラリ	6. 最初と最後の頁 20-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西岡加名恵	4. 巻 通巻8号
2. 論文標題 京都大学・西岡加名恵教授に聞く [ パフォーマンス評価とルーブリック ]	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Den-en Chofu Gakuen Breakthrough	6. 最初と最後の頁 4-5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西岡加名恵	4. 巻 Vol.425
2. 論文標題 Interview 探究をどう捉え、どのような評価観をもつべきか	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Career Guidance	6. 最初と最後の頁 30-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 西岡加名恵	4. 巻 8号
2. 論文標題 パフォーマンス評価で実力をつける	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ことばの学び	6. 最初と最後の頁 4-5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井英真	4. 巻 33号
2. 論文標題 若い先生方に伝えたい授業づくりの基礎・基本 教材研究のススメ 」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 教師のチカラ	6. 最初と最後の頁 68-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 石井英真	4. 巻 5月号
2. 論文標題 新学習指導要領が求めるカリキュラム・マネジメント	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 月刊高校教育	6. 最初と最後の頁 36-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井英真	4. 巻 7月号
2. 論文標題 アクティブ・ラーニングPDCA< 4 > 自校に沿った「主体的・対話的で深い学び」の探求 教科する授業	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 教職研修	6. 最初と最後の頁 54-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井英真	4. 巻 34号
2. 論文標題 若い先生方に伝えたい授業づくりの基礎・基本 教材研究のススメ	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 教師のチカラ	6. 最初と最後の頁 68-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井英真	4. 巻 35号
2. 論文標題 若い先生方に伝えたい授業づくりの基礎・基本 教材研究のススメ	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 教師のチカラ	6. 最初と最後の頁 68-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井英真	4. 巻 8月号
2. 論文標題 アクティブ・ラーニングPDCA< 5 > 自校に沿った「主体的・対話的で深い学び」の探求 教科する授業	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 教職研修	6. 最初と最後の頁 52-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井英真	4. 巻 9月号
2. 論文標題 アクティブ・ラーニングPDCA< 6 > 自校に沿った「主体的・対話的で深い学び」の探求 教科する授業	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 教職研修	6. 最初と最後の頁 52-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井英真	4. 巻 36号
2. 論文標題 若い先生方に伝えたい授業づくりの基礎・基本 教材研究のススメ」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 教師のチカラ	6. 最初と最後の頁 68-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井英真	4. 巻 3月号
2. 論文標題 「学習評価」はカリキュラム・マネジメントにどう位置づけられるか	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 教職研修	6. 最初と最後の頁 20-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計34件（うち招待講演 9件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 西岡加名恵
2. 発表標題 教育実践における評価とその意義
3. 学会等名 日本学校音楽教育実践学会第26回全国大会（課題研究「音楽科で育成すべき資質・能力と評価」）（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 西岡加名恵
2. 発表標題 大阪市立生野南小学校・田島中学校における「『生きる』教育」 困難を乗り越える知識と自己肯定感を保障するために
3. 学会等名 日本カリキュラム学会第32回大会 自主企画セッション（ラウンドテーブル）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 西岡加名恵
2. 発表標題 生野南小学校の学校づくり
3. 学会等名 日本教育学会第80回大会（ラウンドテーブル「『安心・安全』と学力の保障により包摂性を実現する学校づくり 大阪市立生野南小学校の事例検討」）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 赤沢真世
2. 発表標題 パフォーマンス評価と授業づくり
3. 学会等名 小学校外国語授業づくり研究会9月プレミアムセミナー（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 八田幸恵
2. 発表標題 カリキュラムの領域論の意義 学習指導要領編成に関わる基本的問題のリスト化に向けて
3. 学会等名 第32回日本カリキュラム学会全国大会（課題研究 カリキュラムの「不易と流行」を語る ）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 八田幸恵
2. 発表標題 授業実践と国語教育学 事例研究の過程と成果報告のあり方 学習成果物の公刊を通して再検討可能性を創出する
3. 学会等名 第141回全国大学国語教育学会秋大会（課題研究発表 国語教育学を見つめ直し展望する ）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 西岡加名恵
2. 発表標題 高大接続における入試のあり方：パフォーマンス評価の可能性
3. 学会等名 公益財団法人大学基準協会第3回大学評価研究所「公開研究会」（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 鋒山泰弘
2. 発表標題 深い学びにつながる社会科のパフォーマンス課題と評価
3. 学会等名 滋賀県中学校教育研究会社会科部会夏季研修会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 赤沢真世
2. 発表標題 ホールランゲージから考える小学校英語
3. 学会等名 第25回研究会 KEET特別企画オンライン研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 西岡加名恵・久富望
2. 発表標題 ICT活用における学びの質を検討する パフォーマンス評価の視点から
3. 学会等名 日本デジタル教科書学会（第9回年次大会全体ワークショップ）（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 西岡加名恵
2. 発表標題 看護の実践力を育てるカリキュラム設計 パフォーマンス評価をどう活かすか
3. 学会等名 日本看護学教育学会第29回学術集会 教育講演1（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西岡加名恵
2. 発表標題 知ってる？「パフォーマンス評価」
3. 学会等名 京都大学大学院医学研究科 看護科学コース FD
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西岡加名恵
2. 発表標題 研究会のこれまでの取組と、本日の内容の概要説明
3. 学会等名 探究型学力 高大接続研究会（SSH8校連絡会議）公開シンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西岡加名恵
2. 発表標題 標準ルーブリックとは何か
3. 学会等名 探究型学力 高大接続研究会（SSH8校連絡会議）公開シンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西岡加名恵
2. 発表標題 「資質・能力」を育成するパフォーマンス評価 観点別評価をカリキュラムの改善にどうつなげるか
3. 学会等名 京都教育大学附属高等学校 教育実践研究集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 西岡加名恵
2. 発表標題 パフォーマンス評価で育てる学力とは？ 児童・生徒の成果物検討
3. 学会等名 京都市教育委員会「教科等の本質的な学びを踏まえたアクティブ・ラーニングの視点からの学習・指導方法の改善のための実践研究」ワークショップ
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西岡加名恵
2. 発表標題 パフォーマンス課題の作り方 自校課題とパフォーマンス課題の関係も踏まえつつ
3. 学会等名 京都市教育委員会「教科等の本質的な学びを踏まえたアクティブ・ラーニングの視点からの学習・指導方法の改善のための実践研究」ワークショップ
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西岡加名恵
2. 発表標題 教育評価
3. 学会等名 愛知県看護研修センター 平成31年度愛知県専任教員養成講習会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西岡加名恵
2. 発表標題 単元構想を練る
3. 学会等名 京都市教育委員会「教科等の本質的な学びを踏まえたアクティブ・ラーニングの視点からの学習・指導方法の改善のための実践研究」ワークショップ
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西岡加名恵
2. 発表標題 パフォーマンス課題と授業改善
3. 学会等名 京都市教育委員会「教科等の本質的な学びを踏まえたアクティブ・ラーニングの視点からの学習・指導方法の改善のための実践研究」ワークショップ
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西岡加名恵
2. 発表標題 「資質・能力」を育成するパフォーマンス評価 観点別評価をカリキュラムと授業の改善にどうつなげるか
3. 学会等名 令和元年度京都市高等学校全日制教務主任会研修会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西岡加名恵
2. 発表標題 カリキュラムの評価と改善
3. 学会等名 医学書院 看護教員「実力養成」講座2019
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西岡加名恵
2. 発表標題 看護の実践力を育てる！パフォーマンス評価の考え方と進め方
3. 学会等名 医学書院 2019年「看護教員のための教育力UPセミナー」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西岡加名恵
2. 発表標題 講義・講評
3. 学会等名 京都市教育委員会「教科等の本質的な学びを踏まえたアクティブ・ラーニングの視点からの学習・指導方法の改善のための実践研究」ワークショップ
4. 発表年 2020年



1. 発表者名 鋒山泰弘・次橋秀樹
2. 発表標題 社会認識における包括的概念に依拠したカリキュラム・単元設計の意義と課題 国際バカロレア前期中等教育プログラム(MYP)「個人と社会」のテキスト分析と日本での授業実践事例検討を通して
3. 学会等名 日本カリキュラム学会第30回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 赤沢真世
2. 発表標題 子どもの言語経験を尊重する読み書き指導のあり方 アメリカにおけるホール・ランゲージの議論から
3. 学会等名 日本児童英語教育学会全国大会第40回大会(東京家政大学)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 赤沢真世
2. 発表標題 資質・能力を育成するための教科等横断的な学び 小学校外国語活動・外国語の視点から
3. 学会等名 一般財団法人 教育調査研究所【調研セミナー第30回】(同志社大学)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西岡加名恵
2. 発表標題 職業教育におけるパフォーマンス評価 看護教育を中心に
3. 学会等名 教育目標・評価学会 2018年度中間研究集会(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 西岡加名恵
2. 発表標題 パフォーマンス評価の理論と実践 「逆向き設計」論を中心に
3. 学会等名 第16回学校教育学会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石井英真
2. 発表標題 パフォーマンス評価とルーブリックの基本的な考え方と作成方法
3. 学会等名 第67回日本美術教育学会学術研究大会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石井英真
2. 発表標題 「主体的・対話的で深い学び」をどう捉えるか 「教科する」授業の創造へ
3. 学会等名 2018年度数学教育学会秋季例会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 赤沢真世
2. 発表標題 パフォーマンス評価の進め方 ルーブリックの作成と活用注目して
3. 学会等名 日本児童英語教育学会（JASTEC）関西支部春季研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 赤沢真世
2. 発表標題 奥村実践への指導助言 やりとりを入れたプレゼンテーション ICT機器を活用し、英語で人と“つながる力”の育成
3. 学会等名 全国英語教育研究団体連合会（全英連）第68回 滋賀大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 赤沢真世
2. 発表標題 Let's enjoy English! 子どもの思考がかきたてられる授業づくり
3. 学会等名 全国英語教育研究団体連合会（全英連）第68回 滋賀大会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計32件

1. 著者名 西岡加名恵・石井英真編著	4. 発行年 2021年
2. 出版社 明治図書	5. 総ページ数 176
3. 書名 学力テスト改革を読み解く！「確かな学力」を保障するパフォーマンス評価	

1. 著者名 教育目標・評価学会編（西岡加名恵・石井英真・鋒山泰弘）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 日本標準	5. 総ページ数 280
3. 書名 <つながる・はたらく・おさめる>の教育学 社会変動と教育目標	

1. 著者名 C・クライデル編 / 田中耕治・西岡加名恵・藤本和久・石井英真監訳 (西岡加名恵・石井英真・八田幸恵)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 834
3. 書名 カリキュラム研究事典	

1. 著者名 「読み」の授業研究会編 (石井英真)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 学文社	5. 総ページ数 192
3. 書名 国語の授業で「対話的な学び」を最大限に生かす	

1. 著者名 新しい学習指導要領を研究する会編著 (西岡加名恵)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 明治図書	5. 総ページ数 136
3. 書名 3時間で学べる「令和の日本型学校教育」Q&A	

1. 著者名 赤沢真世編著	4. 発行年 2022年
2. 出版社 教育出版	5. 総ページ数 208
3. 書名 小学校 外国語科・外国語活動の授業づくり	

1. 著者名 西岡加名恵編著	4. 発行年 2020年
2. 出版社 学事出版	5. 総ページ数 192
3. 書名 高等学校 教科と探究の新しい学習評価 観点別評価とパフォーマンス評価実践事例集	

1. 著者名 西岡加名恵・石井英真編著（西岡加名恵・石井英真・八田幸恵）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 明治図書	5. 総ページ数 264
3. 書名 教育評価重要用語事典	

1. 著者名 吉富芳正・村川雅弘・田村知子・石塚等・倉見昇一編著（西岡加名恵）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ぎょうせい	5. 総ページ数 224
3. 書名 これからの教育課程とカリキュラム・マネジメント	

1. 著者名 教育課題研究会編（西岡加名恵）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ぎょうせい	5. 総ページ数 -
3. 書名 最新教育課題解説ハンドブック	

1. 著者名 ぎょうせい編（石井英真）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ぎょうせい	5. 総ページ数 136
3. 書名 新教育ライブラリPremier vol.2	

1. 著者名 石井英真編著	4. 発行年 2020年
2. 出版社 日本標準	5. 総ページ数 184
3. 書名 小学校新教科書ここが変わった！算数	

1. 著者名 田中耕治編著（赤沢真世）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 日本標準	5. 総ページ数 220
3. 書名 新3観点 保護者の信頼を得る通知表所見の書き方&文例集 小学校中学年	

1. 著者名 田中耕治編著（赤沢真世）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 日本標準	5. 総ページ数 232
3. 書名 新3観点 保護者の信頼を得る通知表所見の書き方&文例集 小学校高学年	

1. 著者名 泉恵美子・小泉仁・築道和明・大城賢・酒井英樹編（赤沢真世）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 研究社	5. 総ページ数 180
3. 書名 すぐれた小学校英語授業 先行実践と理論から指導法を考える	

1. 著者名 西岡加名恵編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 京都大学大学院教育学研究科	5. 総ページ数 169
3. 書名 令和元年度 成果報告書「E.FORUM 全国スクールリーダー育成研修」	

1. 著者名 西岡加名恵編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 (基礎資料集)	5. 総ページ数 224
3. 書名 高等学校における生活指導と教科教育 田中容子先生の実践記録	

1. 著者名 日本カリキュラム学会（西岡加名恵）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 教育出版	5. 総ページ数 402
3. 書名 現代カリキュラム研究の動向と展望	

1. 著者名 石井英真・西岡加名恵・田中耕治編著（西岡加名恵・石井英真・赤沢真世・八田幸恵）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 日本標準	5. 総ページ数 244
3. 書名 小学校 新指導要録改訂のポイント	

1. 著者名 田中耕治編集代表（西岡加名恵・石井英真）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ぎょうせい	5. 総ページ数 160
3. 書名 評価と授業をつなぐ手法と実践（シリーズ 学びを変える新しい学習評価 理論・実践編3）	

1. 著者名 吉富芳正・村川雅弘・田村知子・石塚等・倉見昇一編著（西岡加名恵）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ぎょうせい	5. 総ページ数 224
3. 書名 これからの教育課程とカリキュラム・マネジメント	

1. 著者名 西岡加名恵	4. 発行年 2019年
2. 出版社 京都大学大学院教育学研究科E.FORUM	5. 総ページ数 181
3. 書名 平成30年度成果報告書 全国スクールリーダー育成研修	



1. 著者名 田中耕治編集代表（石井英真）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ぎょうせい	5. 総ページ数 200
3. 書名 資質・能力の育成と新しい学習評価（シリーズ 学びを変える新しい学習評価 理論・実践編1）	

1. 著者名 石井英真・熊本大学教育学部附属小学校	4. 発行年 2020年
2. 出版社 明治図書	5. 総ページ数 128
3. 書名 粘り強くともに学ぶ子どもを育てる 教材と深く対話する「教科する」授業の理論と実践	

1. 著者名 田中耕治編集代表（鋒山泰弘・赤沢真世）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ぎょうせい	5. 総ページ数 162
3. 書名 各教科等の学びと新しい学習評価（シリーズ 学びを変える新しい学習評価 理論・実践編2）	

1. 著者名 木村優・岸野麻衣編（八田幸恵）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 新曜社	5. 総ページ数 296
3. 書名 ワードマップ授業研究 実践を変え、理論を革新する	

1. 著者名 西岡加名恵・石井英真編（西岡加名恵、石井英真）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 明治図書	5. 総ページ数 176
3. 書名 Q&Aでよくわかる！見方・考え方を育てるパフォーマンス評価	

1. 著者名 独立行政法人教職員支援機構編（石井英真）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 学事出版	5. 総ページ数 140
3. 書名 主体的・対話的で深い学びを拓く アクティブ・ラーニングの視点から授業を改善し授業力を高める	

1. 著者名 石井英真・渡邊洋子編（石井英真）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 協同出版	5. 総ページ数 288
3. 書名 教育実習 教職実践演習 フィールドワーク（教職教養講座 第15巻）	

1. 著者名 岩崎秀樹・溝口達也編（石井英真）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 285
3. 書名 新しい数学教育の理論と実践	

1. 著者名 グループディダクティカ編（鋒山泰弘）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 271
3. 書名 深い学びを紡ぎだす 教科と子どもの視点から	

1. 著者名 京都府教育委員会（赤沢真世）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 京都府教育委員会	5. 総ページ数 143
3. 書名 京都府教育委員会「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」平成30年度研究成果報告書	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>【開催報告】地域課題解決に取り組む高校生サミット 高大連携フォーラムin京都大学  <a href="https://www.educ.kyoto-u.ac.jp/archives/10674">https://www.educ.kyoto-u.ac.jp/archives/10674</a>  【開催報告】小学校外国語授業づくり研究会 9月プレミアムセミナー「パフォーマンス評価と授業づくり」  <a href="https://gaikokugolesson.amebaownd.com/posts/21542446?categoryIds=763159">https://gaikokugolesson.amebaownd.com/posts/21542446?categoryIds=763159</a>  【開催報告】E.FORUM講演会 「教育改革の先行事例としてのSGH」  <a href="https://www.educ.kyoto-u.ac.jp/archives/9648">https://www.educ.kyoto-u.ac.jp/archives/9648</a>  【開催報告】E.FORUM研修会 「総合的な探究の時間」を探究する  <a href="https://www.educ.kyoto-u.ac.jp/archives/9664">https://www.educ.kyoto-u.ac.jp/archives/9664</a>  環境・防災地域実践活動高校生サミット 高大連携フォーラムin京都大学  <a href="https://www.educ.kyoto-u.ac.jp/archives/9060">https://www.educ.kyoto-u.ac.jp/archives/9060</a>  教育実践コラボレーション・センター成果発表会  <a href="https://www.educ.kyoto-u.ac.jp/archives/8783">https://www.educ.kyoto-u.ac.jp/archives/8783</a>  講演「進路多様高校における、社会に開かれた教育を通したカリキュラム開発」  <a href="http://ocw.kyoto-u.ac.jp/ja/opencourse/238">http://ocw.kyoto-u.ac.jp/ja/opencourse/238</a></p>
---

6. 研究組織			
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	石井 英真  (Ishii Terumasa)  (10452327)	京都大学・教育学研究科・准教授   (14301)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	鋒山 泰弘  (Hokoyama Yasuhiro)  (30209217)	追手門学院大学・心理学部・教授    (34415)	
研究分担者	赤沢 真世  (Akazawa Masayo)  (60508430)	佛教大学・教育学部・准教授    (34314)	
研究分担者	八田 幸恵  (Hatta Sachie)  (60513299)	大阪教育大学・教育学部・准教授    (14403)	
研究分担者	中池 竜一  (Nakaike Ryuichi)  (00378499)	愛知教育大学・教育学部・准教授    (13902)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関